2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
組織培養・免疫系分野	免疫病態学特論Ⅱ	向井 知之

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2	選択	2	

目的

研究課題に関連する英語原著論文を読むことは，研究領域の情報収集，実験方法の検討，研究計画の立案に必要である。以下を学習の目標とする。
（１）教員の論文紹介を見聞きして理解する。
（２）原著論文を精読し，内容を理解する。
（３）実践的な原著論文読解力を身につける。
（４）質問や応答などの双方向性相互作用により理解を深める。
（５）未解決の問題点を認識する。

授業到達目標

（１）技能：自分の研究に必要な英語原著論文を検索することができる。
（２）技能：人に説明できるまで論文の図や表の内容を理解する。
（３）技能：論文の内容を要約して人に簡潔に紹介できる。
（４）解釈：論文を批判的に読み評価することができる。
（５）想起：論文の構成を理解し，自分の論文作成に役立てることができる。
（６）技能：論文を読んで得たことを自身の研究に反映させることができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分１	区分２	授業内容
1	隔週	月	17:00-18:30	向井 知之 馬場 伸育	講義	[抄読会]	臨床医学と基礎医学が相互に密接に関連する免疫学は発展し続けており，難解との印象を持たれやすい。初学者に向けて免疫学全般の画期的発見や新知見，免疫関連疾患(炎症，アレルギー，自己免疫疾患，腫瘍免疫など)の病態解析・治療等に関する英文原著論文を紹介する。 [場所:本館棟７階カンファレンス室 12]

評価方法

（１）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（２）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅲで紹介したものとは異なる論文 （症例）であること。
※２月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（１）論文紹介については，内容の理解や紹介の仕方など改善すべきところがあれば指導する。
（２）要約は添削して返却する。必要があれば加筆・修正を加えて再提出する。

教科書

ISBN-978-4860346768，分子細胞免疫学 ： アバス-リックマン-ピレ　原著第 10 版，Abul K. Abbas，Andrew H. Lichtman，Shiv Pillai 著 ； 中尾篤人監訳，エルゼビア・ジャパン，2022
ISBN-9784524251155，Janeway's 免疫生物学，Kenneth Murphy，Casey Weaver 著，南江堂，2019
ISBN-9784260042383，標準免疫学　第４版，小安重夫，椛島健治編集 ； 小安重夫 [ほか] 執筆，医学書院，2021

参考書

ISBN-9784815730819，エッセンシャル免疫学　第４版，ピーター・パーラム著，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2023

準備学習（予習・復習等）

予習：論文紹介で取り上げられる論文をあらかじめ読んで臨む（３時間）。
論文紹介を担当するときは，精読し，わかりやすく紹介するために必要な図や資料があれば，パワーポイントスライドを用いて準備する(６-８時間)。
復習：紹介された論文の内容を自分の言葉で要約する（１時間)。論文紹介を担当したときは，要約を作成する(３時間)。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考方法を知悉する。

注意事項・メッセージ

（１）学会等で教員が不在の時は，休講とするので，予定は前もって確認すること。
（２）文献は，Nature, Science, Cell, Immunity, Nature Immunology, Nature Medicine, Journal of Experimental Medicine, Journal of Clinical Investigation, Journal of Immunology 等から担当教員が選ぶ。
（３）自分が紹介した論文の要約は，その週の内に提出すること。